

救う会の継続に感謝

拉致家族会・飯塚さん 富岡で講演



飯塚繁雄さん

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会代表の飯塚繁雄さん(78)が12日、富岡市内で講演し、「国民、県民の『早く助け出せ』という怒りの声を日本政府にぶつけてもらい、諦めない姿を北朝鮮にもぶつきたい」と、理解の広がりにも協力を求め

た。県や「救う会・群馬」などが主催した。

飯塚さんは、妹で拉致被害者の田口八重子さんの写真を手にかわいそうで見られない。私に聞こえるのは『早く助けて』。これだけです」と話した。

拉致被害者とその家族を支援する市民団体「救う会・群馬」は今夏に解散しかけたが、若手を中心に新たなメンバーが加わって継続が決まった。飯塚さんは講演後の会見で「拉致問

題は風化させてはいけません。県民の皆さんに訴える機会を、継続して作ってもらっている」と謝意を示した。

拉致問題 家族会代表 飯塚氏が講演

「県民のみなさんも怒りの声を」



田口八重子さんの写真を手に講演する飯塚繁雄さん(12日、富岡市)

「解決には国民の声が必要です」。12日、富岡市で開かれた拉致問題講演会(県など主催)。市民ら約500人を前に、家族会代表の飯塚繁雄さんと特定失踪者問題調査会代表の荒木和博さんが、問題解決に向け協力を訴えた。

講演した飯塚さんは妹の田口八重子さん(22)が突然いなくなった状況や、田口さんの長男、飯塚耕一郎さん(39)に19年前、「お母さんは北朝鮮にいて帰ってこられない」と打ち明けた状況を振り返った。現在、耕一郎さんは拉

致救出活動に加わっているが、田口さんのことを「母」と呼ばず「田口八重子さん」と言っているという。

飯塚さんは「妹が帰国し、抱き合うときには『お母さん』という言葉が出るのではないかと期待している」と語った。

北朝鮮が拉致の特別調査委員会を設置し報告書を出すと言っていたことには、「あれはでっち上げで、日本がどのように動くかを見ているだけ。報告書なんか知らない。いるのは本人の帰国だけだ」と訴えた。そのうえで「県民のみなさんにも政府に『早く助け出せ』という怒りの声をぶつけてほしい」と呼びかけた。

一方、荒木さんは県内の

特定失踪者、加藤八重子さん(38)や横田道人さん(23)の家族らのメッセージを収録し、北朝鮮向け短波放送「JRS Rしおかせ」に放送しており、講演で放送内容を紹介。拉致解決には「総理の明確な意志がないとできないが、基本的には国民の意志が必要」とし、「とにかく拉致を心にとめておいてほしい」と語った。

講演に先立ち横田めぐみさん(13)の拉致事件を扱ったドキュメンタリー作品「拉致 私たちは何故、気付かなかったのか!」も上映した。講演を聞いた富岡市の小林昌子さん(81)は「どうして解決できないのか…。募金などで応援していきたい」と話した。